

町議会行政視察研修報告

2月6日から7日の2日間、町議会の中山中学校改築特別委員会による行政視察が行われました。その視察内容について報告します。

●福島県小野町（小野中学校）

（中山中学校改築特別委員 鎌上 徹）

2月6日に視察した小野町は阿武隈山地の南部に位置し、郡山市・いわき市等3市1町に隣接しており、起伏の多い丘陵地帯にあります。人口は1万1229人（今年度当初）、面積は125.1km²です。

小野中学校は小野新町中学校、夏井中学校、飯豊中学校の3校が統合され、昭和43年に校舎、昭和44年に屋内運動場が完成した当時、全校生徒1000人を擁する大規模校としてスタートした学校でした。

その後、校舎施設の老朽化が進み、平成12年度に耐力度調査、平成15年度に耐震診断等の検査を受けたところ、いずれにおいても基準を下回り、早急の改築工事を行う必要が生じたために改築工事を決定しました。

平成20年 拡張用地を取得
平成21年 校舎実施設計完了
平成22年 普通教室棟・管理棟完成
平成23年 特別活動室棟・給食センター棟・屋内運動場・特別教室棟完成
平成24年 プール完成

小野中学校も少子化の波にあり、昭和43年当時1000人いた生徒数が、現在では291人と激減している中での改築工事となりました。

建設設計
業務の業者選定はプロポーザル方式をとり、選定委員には町長、教育委員長、担当職員、校長、基本コンセプト



委員等が参加し選定したとのことでした。

関係機関の意見を幅広く聞き取り選定したことについては当町も見習い、見かけだけではなく、生徒や教師の意見を取り入れることができる業者の選定を希望するところです。

工事の発注形態は町企業の受注機会の拡大や将来のメンテナンスなどを考慮し、従前の町同種工事のとおり分離発注方式としました。校舎・屋内運動場とも、建築主体工事、電気設備工事、機械設備工事を分離したものでした。町の企業への受注機会を積極的に広げていることについては、当町も取り入れるべきではないかと思えます。

分離発注方式にすると、事務手続きや事業費が増えるとか、監理が大変になるという問題もありますが、地元企業に仕事をもらうことによる今後10年、20年先の

施設メンテナンス等を考えても、ぜひ取り入れたい方式です。

建設費は鉄筋コンクリート2階建ての校舎が給食センターを含め9億9197万5000円（予算額12億3000万円）、屋内運動場が武道場を含め2億5644万円（予算額3億円）でした。



町有財産の間伐材の積極的活用により資材代が抑えられており、当町と同等規模の中学校でありますが、コスト的にも中山中学校改築の参考にしてもいい学校だと思います。

ただし、小野中学校の改築事業は東日本大震災以前の事業のため、あくまでも金額は参考程度に

しておかなければいけません。

教室の廊下部分はガラス張りできるとあってあり、可動式の間仕切りにより、学年ホールとして利用できるようになっていきます。学年4クラスをユニットとして、学年ホールを含め学年ごとに特徴を持たせた教育を目指しているものです。音楽室や理科室、家庭科室、多目的ホールは、2室ずつ用意されています。屋内運動場に関しては、木材を多用していますが、狭さを感じました。

小野中学校は単なる教育施設ではなく、町の公共施設として、地域との調和、コミュニティの拠点としての施設整備を目標としていました。

今後、私達の中山中学校も、町の拠点としての役割が強くなっていくと思われ、公共施設の1つとして町民にも広く開かれた施設を目指さなければならぬと感じました。

●福島県矢吹町（矢吹中学校）

（中山中学校改築特別委員 渡辺博文）

2月7日は、矢吹町立矢吹中学校を視察しました。

矢吹町は福島県の南部に位置しています。町の人口は1万7887人（今年度当初）、総面積は60.37km²で、三方を阿武隈川、隈戸川、泉川が流れ、羽鳥ダムの水を利用した農地が町の面積の半分以上を占めています。空港・高速道路・鉄道の交通体系に恵まれているほか、町内を国道4号が通り、主要地方道6本が集結するなど、南東北の玄関口として、産業・流通ともに重要な役割を担っています。

矢吹中学校は、校舎・体育館ともに東日本大震災直後の3月25日に完成しました。3月11日の午後、全校児童が下校直後に震度6弱の地震の直撃を受け、旧校舎は甚大な被害を受けましたが、完成間近な新校舎は無傷だったようで、奇跡の間一髪だったようです。

●設計（基本設計・実施設計）建築等で特に考慮した



点は、○給食棟を残し既存校舎を活用しながらの改築○敷地内の段差を生かした設計○開発許可制度に該当しないように設計○広いアリーナを有した体育館を整備○屋内プールを整備というのがテーマだったようです。

●概要・事業費・建設面積については校舎Ⅰ期工事・Ⅱ期工事合わせて約7000m²で15億円強、体育館約2000m²で5億円弱、屋内プール・武道場合わせて約2000m²で5億円強、解体費が約1700万円です。その他工事を含め総工費は32億円ということ、中山中学校の改築事業規模と近いものです。

●発注方法については、全て指名競争入札で、基本的には全て地元業者優先という方向だったらしいのですが、スクールニューディール構想を最大限に生かすために工期の関係上、本体工事は大手ゼネコンにならざるを得なかったとの話がありました。補助金を最大限確保するために、解体・建築を繰り返し最終的に全体完成という方式を取って完成させたので、工期中の騒音は多少授業に影響したとのこと。

授業中に内部を視察させていただきましたが、木質化を前面に押し出しているため、床・壁・建具他、木の温もりが暖かい内装で、屋内プール・武道場・体育館は中学校の施設とは思えないくらいに広くて豪華、トイレについては全て全自動で大理石まで使用してありました。その施設が生徒に好影響を与えているらしく、生活態度・授業を受けようとする態度が旧校舎の時よりも目に見えて良いものになってきているということです。

終わりにですが、敷地入口に放射線を計る線量計があり、0.1マイクロシーベルト（毎時）を表示しており、校内に防護服が掛けてあったことが、どうにも悲しく悔しい思いです。

